



祐介の目

No.112

大田祐介 (福山市議会議員)

この春、20歳の女性から過疎の山野町でハンバーガーのキッチンカー営業をしたいという相談があった。電源等は私のワイナリーから引くことで開店したが、意外にもコロナを避けて来た人達が繁盛している。彼女は山野町がとても気に入り、私が紹介した空き家に単身で引っ越してきた。家賃はタダ、薪ストーブを設置してスマホも手放し、広い庭でニワトリを飼って自給自足に近い生活を送っているが、これぞウィズコロナの生活と言えるかもしれない。

アウトドアブーム
 新型コロナウイルス感染症拡大とともに意外に伸びているのがアウトドア業界だ。ウェア、靴、キャンプ用品等の売り上げが伸び、キャンプ場はどこも盛況だ。3密を避けて自分だけの空間を作り、バーベキューを囲んで一杯飲めばコロナ禍のことも忘れられるのだろうか。山野峡キャンプ場もTVの「西村キャンプ場」が来て以来、テントの花が咲いたような景色だった。紅葉の季節にはドライブやサイクリング、バイクツーリング等で多くの方が山野峡を訪れた。過疎地がコロナの影響で一転して賑やかになりつつあり、キャンパーを相手に薪を売る住民も出てきた。またホームセンター等で売っている炭は海外産で質が悪いので、炭焼きをしてバーベキュー用に販売すれば森林整備を兼ねて一石二鳥だろう。コロナを避けて都会からの移住者も増えているというが、

さて山野峡ワインはどうかと聞かれると、コロナ禍により売り上げは激減している。幸いワインには消費期限が無いのでコロナが収まるまで寝かせて置けるが、対策としてyoutube「山野なんでも」によりオンラインショップへ誘導して巣籠り需要に期待したり、ワイナリー近くの耕作放棄地をドッグラン付きのキャンプ場に整備したりして誘客する構想を練っている。今年には自然災害とも言つべきコロナを克服して良い年にと願うが、大自然の摂理にはかなわない。いかに自然と共生するか、皆様も知恵を絞ってウィズコロナという新しい時代を生き抜いて欲しい。